

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第138回本部会議 記録

日 時／令和5年1月13日（金）

15：30～15：53

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第138回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まず、スライド1です。主な指標の状況について、昨日1月12日時点ですが、新規感染者数は、年末年始との比較とはなりますものの全ての地域で今週先週比が1を上回っておりまして、人口10万対では、札幌市487.0人、札幌市を除く地域で527.5人、全道で512.1人と、いずれの地域も増加傾向が見られております。また、病床利用率ですが、札幌市で37.8%、札幌市を除く地域は38.0%、全道38.0%と、概ね減少傾向が見られる中、地域では増減があるところもございます。

続いて、スライド2です。各圏域の状況ですが、年末年始との比較では、新規感染者数の先週比が全ての圏域で1を上回っておりまして、増加傾向が見られます。また、病床利用率も、多くの圏域で概ね減少傾向が見られるものの、道南圏ですが、50%を超え高い水準となっております。

続いて、スライド3、総評①です。全国の状況です。新規感染者数について、国の専門家は、年末年始に一時的に減少した後、再び増加傾向が継続し、高い感染レベルとなっていると指摘しておりまして、今月4日以降、本道は人口10万対の新規感染者数が他の都府県と比較して、最も低い水準となっております。

医療提供体制です。病床利用率は減少しておりまして、札幌市も同様の傾向が見られる中、地域においては、道南圏で高い水準となっているほか、重症病床利用率は6.5%と、横ばいで推移しております。

感染状況です。新規感染者数は、年末年始に入り減少が続いていたものの、人口10万対では、増加傾向にあるほか、年代別では、30代以下の割合が5割を下回りまして、特に10代以下が大きく減少しております。

道内の流行株は、BA.5系統が主流となっている中、先月27日以降、BQ.1やBQ.1.1系統が11件確認されておりまして、さらに今月11日には、XBB.1系統が道内で初めて確認されるなど、オミクロン株の亜系統は、徐々に増加しておりますことから、引き続き、ゲノム解析によりまして、道内における動向を監視してまいります。

続いてスライド4、総評②です。季節性インフルエンザですが、全国で流行入りしておりまして、道内でも、全道30保健所管内全てで流行入りし、このうち、江別、岩内、室蘭の3保健所管内では、注意報を発令するなど増加傾向が続いており、国の専門家は、全国では、同時期と比べ例年よりも低いが、直近2年間より高い水準にあると指摘しているところがございます。

今後の対策です。新規感染者数は、年末年始に入り減少が続いていたものの、現在は増加傾向となっている中、医療機関の休診などの影響が考えられますことから、今後の状況

について慎重にモニタリングを行ってまいります。

年末年始や冬休みが終わり、生活が通常モードに切り替わる中、道内は、引き続き、高い感染レベルにありまして、季節性インフルエンザも流行入りしているため、道民の皆様に、今一度、基本的な感染防止行動の徹底について呼びかけますとともに、3年ぶりに行われる冬のイベントなど、人との接触機会が増える場面では、より一層、取組を徹底するよう、働きかけてまいります。

続いて、スライド5、総評③です。10代以下の感染者割合は、大きく減少しているものの、学校の新学期に備えまして、改めて児童・生徒や保護者に対し、感染防止行動の徹底を呼びかけてまいります。

ワクチンです。道のワクチン接種センターは、明日14日から、オミクロン株対応2価ワクチンなどの接種を開始し、引き続き、市町村とも連携を図りながら、SNSなど多様な媒体を活用して、接種時期が来ている方には、できるだけ早期の接種を検討いただけるよう働きかけてまいります。

また、無料検査事業は、2月末まで期間を延長してまいります。

続いて、新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いですが、国の専門家において、今後の法的位置付けや対策については、必要な準備を進めながら段階的に移行することなどが議論されておりまして、引き続き、国における検討の動向について、情報収集を進め、市町村や医療関係団体などと共有してまいります。

次に、スライド6以降について、何点か主要な動向等を補足説明いたします。少しスライドを飛ばしまして、スライド18をご覧ください。棒グラフの右側のとおりですが、新規感染者数は、各年代とも年末年始まで減少傾向にありましたが、足下では現在、増加傾向にある中、20代から30代の感染者数が増加している一方で、10代以下の感染者数は、他の年代に比べ増加幅が小さい状況にごさいます。また、左側の円グラフのとおり、引き続き、30代以下の割合が最も高い状況にありますものの、47.4%と50%を割っているほか、60代以上の割合は、23.1%と、2割を超える状況が続いております。

次に、スライド19をご覧ください。集団感染の発生状況ですが、札幌市、札幌市を除く地域とともに、年末年始と比べ、足下で若干、増加傾向が見られます。

続いて、スライド20をご覧ください。ワクチン接種ですが、上段の表、オミクロン株対応2価ワクチンは、11日現在、VRSベースで約205万5千人、接種率は39.6%と全国を上回っておりますものの、このうち65歳以上は、約100万9千人、接種率は60.3%と全国を下回っている状況が続いております。また、下段の表の下枠、小児の接種率ですが、1回目22.1%、2回目21.1%、3回目8.3%と低い水準が続いております。

続いて、スライド21をご覧ください。道のワクチン接種センターですが、昨年に引き続き、ホテルエミシア札幌を会場といたしまして、明日14日から再開し、これまで同様、オミクロン株対応2価ワクチンとノババックスワクチンの接種を推進してまいります。現在、1月分の予約を受付中ですが、どちらのワクチンも全ての日程で空きがある状況でございます。なお、先程説明しましたが、全国との比較では、50歳代までの各年代で、全国の接種率を上回っておりますものの、65歳以上の高齢者層で、全国の接種率を下回っていることなども踏まえまして、全年代での接種の更なる加速化に向け、市町村の取組を積極的に支援してまいります。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータや情報でございますので、後ほどご覧いただければと思います。資料1の説明は以上となります。

続きまして、資料2をご覧ください。資料1 道内の感染状況等につきまして、専門家、

有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村、関係団体の方々にも事前にお知らせしております。

有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいておりますが、その内容をご紹介しますと、1-①「他県と比較し、新規感染者数は低い水準にあるが、依然、高止まりしている上、インフルエンザも流行してきており、引き続き、対策が必要。」1-②「高齢者施設でのクラスターが依然として収まらない中、重症化による入院や、基礎疾患の治療に支障のないよう、引き続き、クラスター発生施設の状況把握と適切な対応をお願いしたい。」1-③「冬のイベントが各地で開催されるため、教育委員会、学校関係者は、児童・生徒に対し、コロナやインフルの感染予防に係る保健指導の呼びかけをお願いしたい。」といったご意見が寄せられております。

また、市町村や関係団体の方々からは、2-①「学校の新学期開始に伴い、児童・生徒の感染増が予想されることやインフルの流行入りも踏まえ、解熱剤や検査キット等の準備などをお願いさせていただきたい。現在主流のBA.5系統は、重症化しにくいとされているが、死亡者の増加について、国において要因等の分析を行っていただきたい。また、こうした状況の中、自宅療養中の体調悪化に不安を抱える方もいるため、引き続き、サポート体制の周知をお願いしたい。」といったご意見が寄せられております。こうした面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明をいたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてであります。昨日時点では9,548人です。市の人口10万人あたりに換算いたしますと、487.0人となっております。昨年の同時期の状況として、連休以降に感染者数の急増が見られております。今年は現時点においては大きな増加は見られておりませんが、今後の動向に注視が必要と考えてございます。なお、札幌市におきまして、陽性検体のゲノム解析を実施したところ、オミクロン株のXBB.1系統が1例市内で初めて確認がされました。今後の発生动向については、引き続き、ゲノム解析を行い注視してまいります。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数の推移についてでございます。直近では290人と年末の患者数と比べて減少しております。病床使用率は4割を下回る水準となっております。重症患者につきましては、赤の折れ線グラフであります。5人と低い水準で推移をしております。引き続き、医療機関との連携を図り、市内医療提供体制の維持に努めてまいります。

季節性インフルエンザにつきましては、定点当たりの報告数が流行開始の目安となる1を超えたところであります。札幌市と札幌市医師会が連携して実施いたしますドライブスルー型臨時小児発熱外来の直近の状況によりまして、インフルエンザの陽性者数がコロナの陽性者数を上回るなど、インフルエンザの増加傾向が見られているところでございます。

また、本日の資料には添付しておりませんが、札幌市が把握した新型コロナウイルス感染症の死亡者の解析につきましては、アルファ株が流行した第4波の2021年4月1日

から6月30日までの3ヶ月で、新規の陽性患者数が13,435人に対しまして、死亡者数が471人ということでした。これをオミクロン株の流行があった昨年、2022年7月1日から9月30日までの同じく3ヶ月間では、オミクロン株の新規陽性者数が150,813人で、これは第4波のアルファ株の時の10倍以上の数でありましたけれども、死亡者数は161人でありました。新規陽性者数が10倍以上でありましたオミクロン株でも死亡者数はアルファ株の流行の際よりも少ないのは、ワクチンの効果やウイルスの病原性の低下によるもの等が関連していると思われまます。

また、昨年の7月1日から11月30日のオミクロン株の流行の7波から8波で、札幌市が把握した新型コロナウイルス感染症の死亡者418人のうち、89.7%が70歳以上の高齢者という結果でありました。このことから死亡率、重症化率が低いとされるオミクロン株の流行でありましても、感染の拡大がありますと結果として、死亡者数が増えることになり、特に医療機関やお年寄りの施設でのクラスターが発生しますと、感染が急速に拡大することが経験的にわかっています。

市内ではXBBという新たな変異株が確認されており、今後の置き換わりが懸念されることから、感染者数を減らし医療への負荷を抑えるためにも、基本的な感染対策の再徹底とワクチン接種の促進が重要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局からご説明をお願いいたします。教育長、お願いします。

【倉本教育長】

資料4をご覧くださいと思います。冬休みが終わり学校での教育活動が再開することから、児童生徒及び保護者等の方々に注意喚起するため、リーフレットを作成し、配布をいたします。

まず、基本的な感染対策の徹底についてですが、手洗い又は手指消毒の徹底、少しでもいつもと違う症状がある場合には、外出せず家で休養することなどを、改めて注意喚起します。また、季節性インフルエンザとの同時流行への懸念が高まっております。発熱等の症状が出た場合の流れのほか、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの出席停止期間について周知をいたします。

今後、学校では高校などの入学試験やスキーなどの校外活動が行われますことから、道教委では、より一層家庭と連携しながら、安全・安心な教育活動に努めてまいります。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、渡島総合振興局長、お願いします。

【田中渡島総合振興局長】

資料5をご覧ください。はじめに、函館市を含む渡島管内の感染状況ですが、昨年の11月23日に過去最多の新規感染者が確認され、12月以降は新規感染者数は増減を繰り返しております。年末年始の人の動きにより影響が懸念されていた中、渡島保健所管内におきまして、季節性インフルエンザの報告数が年末に流行開始の目安であります基準を超え、年明けには増加傾向が顕著となっているなど、新型コロナウイルスとの同時流行に繋

がる可能性もありますことから、それを踏まえまして、振興局といたしましては、引き続き、感染拡大防止に向けた取組を実施しているところであります。

次に管内におけます感染拡大防止に係る取組についてですが、具体的な取組について2に取りまとめております。はじめに、住民・観光客等への注意喚起といたしまして、市町と連携した周知啓発はもとより、函館市につきましては、引き続き、地元のラジオ局やケーブルTV局の協力の下、市と振興局との共同メッセージを発信しております。また、4つめの・ですが、自宅療養に備えた情報をまとめたリーフレットを作成、配布。その下、渡島教育局と連携し、新学期に備え管内の各学校に対し、インフルエンザを含めた感染対策の周知啓発を依頼するとともに、高等教育機関にも啓発リーフレットを配布するなど、注意喚起を実施しております。

次に、医療機能等の維持・強化ですが、保健所では、集団感染が発生した施設に対し、適切な衛生指導を行うほか、貸出用の酸素濃縮器などを速やかに提供できるよう衛生資材の充実を図ったところでございます。また、振興局では、年末年始における疫学調査や入所等の調整業務が万が一にも滞ることがないように、あらかじめ応援職員の派遣体制を整え、保健所の機能の維持に努めてきております。

次に、社会経済活動の維持ですが、感染防止行動の再徹底を呼びかける振興局独自のリーフレットを作成し、商工会議所や観光協会など関係団体へ周知したほか、振興局職員が主要宿泊施設を訪問し、年末年始に向けた感染防止対策の再点検を依頼したところでございます。

最後に、行事・イベント等の安全対策といたしまして、年明け各市町で成人式が執り行われましたが、こうした年末年始のイベント開催におけます感染拡大防止対策を含めた安全対策の徹底について、各市町に依頼しております。

以上が渡島の取組となりますが、引き続き、各市町や関係機関などと連携し、地域一体となって、管内の感染防止対策に取り組んでまいります。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

その他、各部、振興局等からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】

本日の道内の新規感染者数は3,270人となりました。人口10万人当たりでは、465.0人と、医療機関の多くが休診となっていた先週と比較いたしますと増加しているわけですが、年末年始の間、道民の皆様へ感染対策へのご理解とご協力をいただき、現時点においては、大幅な増加には至っていない状況にあります。引き続き、年末年始の影響も含め、感染状況について慎重にモニタリングを行ってまいります。本日の病床使用率は、38.5%と減少しております。また、重症病床使用率については、7.3%と横ばいで推移しています。

道内の新規感染者数は、1月4日以降、9日連続で全国で最も低い水準が続いているところでありますが、年末年始や冬休みが終わり、生活が通常モードに切り替わる中、引き続き、高い感染レベルにあり、季節性インフルエンザも道内すべての地域で流行入りという状況になっています。こうしたことから本部員、地方本部員においては、道民の皆様へ今一度、基本的な感染対策の再徹底や十分な換気などについて呼びかけをするようお願いいたします。また、今後、全道各地で3年ぶりに冬のイベントが開催されるといった例が多

くなります。こうした人との接触機会が増える場面では、特に取組を徹底するようにお願いをいたします。

年代別の感染者数であります。12月下旬以降、10代以下の割合が大きく減少しています。学校では順次新学期が始まります。生活が切り替わることから改めて児童・生徒や保護者の皆様に対し、感染防止行動の徹底についての呼びかけをお願いいたします。

ワクチンの接種についてであります。道のワクチン接種センターについては、明日1月14日から接種を開始いたします。引き続き、市町村とも連携を図りながら、接種できる時期が来ている方には、できるだけ早期の接種を検討ということで、働きかけをお願いいたします。

最後に、新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いについてであります。これまで国の専門家や分科会で議論されてきたわけでありましたが、一昨日、11日には、今後の法的位置付けや対策について必要な準備をすすめながら段階的に移行することなどが議論された状況にあります。今後、国における検討が加速することも想定し、検討状況について情報収集を進めるとともに、道内市町村や医療関係団体などと共有するように指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第138回本部会議を終了いたします。

(了)